

昭和59年度
富士見遺跡群
発掘調査概報

窟谷戸遺跡
見眼A遺跡
見眼B遺跡

富士見村教育委員会

序 文

富士見村は、古墳や埋蔵文化財の包蔵地も多く、古来から先人たちの文化の営まれた地と考えられていました。

今回の窪谷戸、見眼A、見眼B三遺跡の発掘調査は、いずれも県営は場整備事業にともなうもので、本格的な発掘調査としては村内で二番目のものといえます。

本調査により、主に古墳時代の遺跡であった田中田遺跡に次ぐ奈良・平安時代の遺跡、また縄文時代の遺跡や中近世の掘立柱建物址なども確認することができました。富士見村の古代史解明の足がかりとして大きな収穫であったと考えます。

私たちの祖先がたどった歴史の痕跡である文化遺産を保護し、その活用を図り、文化の向上と郷土愛の精神を養うことが、発掘調査の目的ですが、ほ場整備による遺跡の破壊を最小限度にとどめるために、工事計画の変更もしていただきました。また、やむなく破壊せねばならないところは、出来る限り綿密な調査を行ない、その記録保存につとめました。

ここに、その概要を報告いたします。

最後に、今回の発掘調査にあたり、ご協力をいただきました工事関係者の方々、その他大勢の方々のご協力に深く感謝の意を表して序とします。

昭和60年3月

富士見村教育委員会

教育長 林 己未治

例 言

1. 本書は昭和59年度県営富士見地区は場整備事業に伴う群馬県勢多郡富士見村大字米野所在の羅谷戸遺跡、見眼A、見眼B遺跡の発掘調査概報である。
2. 発掘調査は、昭和59年7月15日から12月25日まで実施した。
3. 発掘調査は群馬県教育委員会文化財保護課の指導をうけて富士見村教育委員会の直営事業として行ない、主に調整事務を船津幸弘（富士見村教育委員会社会教育課長）が、調査を調査担当者・西田健彦（群馬県教育委員会文化財保護主事）として、樺沢元治（富士見村教育委員会社会教育課係）羽鳥政彦（同臨時職員）が行なった。
4. 本書の作成はIIの執筆を樺沢が、それ以外の執筆、図版作成、編集等は羽鳥が行なった。
5. 発掘調査にあたり下記の機関の方々の御教示、御協力を賜った。記して感謝いたします。

群馬県教育委員会文化財保護課

前橋土地改良事務所

富士見土地改良区

北橘村教育委員会

柿沼 恵介 右島 和男

(敬称略)

目 次

I	遺 跡 の 位 置	1
II	発掘調査に至る経過	2
III	発掘調査の方法と経過	3
IV	遺構と遺物の概要	4
1.	窪 谷 戸 遺 跡	5
2.	見 眼 A 遺 跡	9
3.	見 眼 B 遺 跡	10

~~~~~挿図目次~~~~~

1. 遺跡位置図
2. 窪谷戸遺跡遺構分布図..... 1
3. 窪谷戸遺跡遺構実測図及び出土遺物（16号住） 13
4. " " (17号住) 14
5. 見眼A 遺跡遺構分布図..... 15
6. 見眼A 遺跡遺構実測図及び出土遺物..... 16
7. 見眼B 遺跡遺構分布図..... 17
8. 見眼B 遺跡遺物実測図..... 18

~~~~~写真図目次~~~~~

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. 庄谷戸遺跡 通景 | 26. 見眼A 遺跡遺物出土状態 |
| 2. " A区全景 | 27. " " |
| 3. " B区全景 | 28. " J 1号住全景 |
| 4. " B区カット部分全景 | 29. " " 遺物出土状態 |
| 5. " J 1号住全景 | 30. " 41-27G 6号土括セクション |
| 6. " J 1号出土遺物 | 31. " 41-28G 1号土括遺物出土状態 |
| 7. " 16・17号住全景 | 32. " 41-27G 1号上括遺物出土状態 |
| 8. " 16号住遺物出土状態 | 33. " " " " |
| 9. " 17号住遺物出土状態 | 34. " 41-28G 2号土括遺物出土状態 |
| 10. " 25号住全景 | 35. " 41-29G 1号上括遺物出土状態 |
| 11. " 37号住遺物出土状態 | 36. " 40-27G 8号上括遺物出土状態 |
| 12. " 住居址重複状況(29.30.41.42) | 37. " 2号住全景 |
| 13. " 14号住カマド | 38. " 5号住遺物 |
| 14. " 10・11号住カマド | 39. " 1号掘立全景 |
| 15. " 3号住遺物 | 40. " 1号溝全景 |
| 16. " 33b号住遺物 | 41. 見眼B 遺跡全景 |
| 17. " 26号住遺物 | 42. " 5号住全景 |
| 18. " 2号溝全景 | 43. " 1号住全景 |
| 19. " 8号溝全景 | 44. " 3号住遺物出土状態と2号溝 |
| 20. " 井戸址 | 45. " 4号住全景 |
| 21. " 竪穴住居状遺構 | 46. " 5号住全景 |
| 22. " 竪穴住居状遺構(50号住) | 47. " 15号住全景 |
| 23. " 作業風景 | 48. " 創立柱建物群と2号溝 |
| 24. 見眼 遺跡 全景 | 49. " 1号掘立 |
| 25. " 作業風景 | 50. " 特殊遺構全景 |

I 遺跡の位置と歴史的環境

〈位置〉

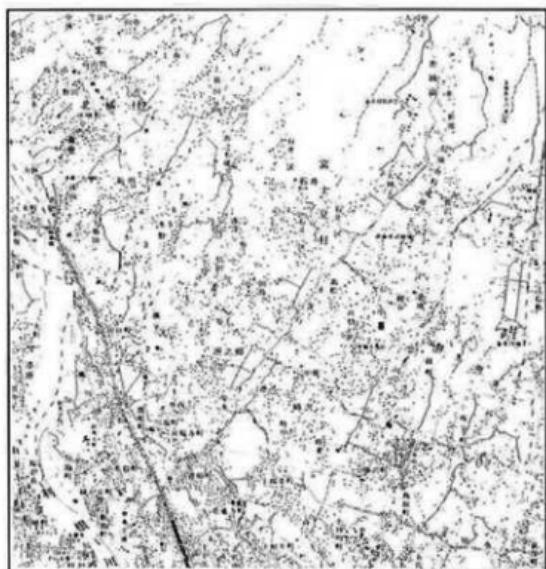
窪谷戸、見眼A、見眼Bの三遺跡は、赤城山南麓の桶川、法華沢川に挟まれた台地上に位置する。

赤城山南麓を比較的ゆるやかに下ってきたこの台地は、標高 250m ラインを境にして、やがて微地形を形成します。台地の東端部は、法華沢川に沿って南北に長い支尾根を形成し、この支尾根上に沼田街道の旧米野宿の家並が立ち並ぶ。台地の中央部と西端部には、小さな舌状台地が形成される。

見眼A 遺跡は、この支尾根の北端部、旧米野宿の家並が切れる標高約 250m のところに位置する。また、見眼B 遺跡は、見眼A 遺跡の西南方に 100m 程離れ、中央の舌状台地が形成されはじめると標高240~250m付近に位置する。さ

らに、窪谷戸遺跡は、見眼B 遺跡の乗る舌状台地の東南端部、標高220~230m のところに谷地に面して位置している。現状はおおむね桑畠となっている。

- ① 九十九山古墳
- ② 田中田道跡
- ③ 丸山城址
- ④ 尺神遺跡
- ⑤ 窪谷戸遺跡
- ⑥ 見眼A 遺跡
- ⑦ 見眼B 遺跡
- ⑧ 龍の口遺跡



第1図 遺跡位置図

〈歴史的環境〉

群馬県遺跡台帳には、本村の86か所の遺跡所在地があげられている。また、昭和26年村誌発行に際して行なわれた調査によって多くの遺跡包蔵地が確認されている。それらによると、特に縄文時代前期・中期と、古墳、奈良、平安時代の遺跡が多いようである。

しかし、現在までに発掘調査を経て確認された遺跡は数少ない。群大史学研究室によって行なわれた8基の古墳の調査の他には、先年度には場整備事業に伴って行なわれた、横室の田中田遺跡（縄文時代前・中期、古墳時代前～後期）と、今年度県立歴史博物館によって試掘が行なわれた龍の口遺跡（旧石器・縄文時代前期）の2例だけである。

米野地内の遺跡包蔵地を概観すると見眼A、B遺跡の北に数基の古墳があり、窪谷戸遺跡の西に弥生時代、縄文時代中期の遺物を出土した尺神遺跡、南に丸山城址等がある。

II 発掘調査に至る経過

富士見村及び隣接する北橋村にまたがる 588ha におよぶ県営は場整備事業は、富士見地区において計画面積 480ha、事業期間 7 年の予定で、昭和58年度からスタートした。

本年度は場整備事業の行なわれた米野地区では、窪谷戸、見眼、尺神、丸山の 4 地区が群馬県遺跡台帳に記載されており、遺跡保護と記録保存のために工事着工前に発掘調査することを前橋土地改良事務所と確認しあった。

6月8日、県文化財保護課、前橋土地改良事務所、当村土地改良課の立ち合いのもとに遺物の分布調査を実施した。その結果、丸山及び尺神は、今年度事業の範囲内に遺物散布はみられず、窪谷戸、見眼では多量の土器・石器の散布を確認したので、この地区について調査を行なうことになった。

しかし、この 2 地区だけでも調査面積は約 1 万m²と広範であり、また、調査計画をたてるためにも遺跡の範囲と遺構数をより具体的に把握することが必要となつた。そこでまず窪谷戸地区の試掘を行ない、遺跡の破壊を最小限度に止めるために工事計画の変更等を協議し、最終的な調査範囲を確定した。また見眼地区については、桑等畠作物の収穫時期を考慮して 8 月下旬に試掘を行ない、再度協議することとなつた。

7月14日、前橋土地改良事務所と埋蔵文化財調査委託契約を締結し、8月9日から本格的な発掘調査に入った。

III 発掘調査の方法と経過

〈方法〉

調査区域を重機によって試掘を行ない、遺構が検出された区域について本調査を行なった。本調査は全面発掘を行なった。

主に測量の為に縦幹線のセンター杭を基準として10m×10mのグリッドを設定し、窪谷戸遺跡の南西端の外側に位置する杭を0-0とし、そこから東と北へ算用数字を割りつけていき、東南杭を各グリッドの呼称とした。見眼A、見眼B遺跡も窪谷戸遺跡からの続き番号でグリッドを設定した。

遺構は、各遺跡ごとに通し番号を付けたが、土塁については、グリッドごとに番号を付けた。

窪谷戸遺跡では、縦幹線とその東のカット部分をA区、支線とその東側カット部分をB区と便宜的に呼称して調査を行なった。

〈経過〉

調査は窪谷戸遺跡より開始した。試掘は7月中旬に済んでいたので8月初旬より本調査を行ない、50軒の堅穴住居を主とする多数の遺構、遺物の出土をみな窪谷戸の調査は10月で終了し、終了時点に併せて県道下の試掘を行なったが遺構は検出されなかった。

また、支線の南側に念の為に試掘を入れたところ、一条の講を検出した。

見眼地区では、9月中旬に縦・横幹線のセンターに沿って重機による試掘を行なった。試掘は全線にわたって行なったが、縦幹線は台地南端部から村道までの約150m、横幹線は東端から約100mの部分に遺構・遺物の出土が限られたため、この区間のみ本調査を行なった。横幹線を見眼A、縦幹線を見眼Bと呼称し、都合により①見眼A（古代以降）②見眼B③見眼A（縄文時代）の順序で調査を行なった。全ての調査が終了したのは、当初の計画通り、12月下旬であった。

IV 遺構と遺物の概要

1. 離谷戸遺跡

縄文時代の遺構は、堅穴住居址1軒、土塙2基と少なく、包含層中からの遺物の出土も少なかった。縦幹線の北端部に検出されたJ1号住は、3.5m×3.5mの規模をもつ方形住居である。南東部の半分程は、耕作によって削平されており、遺存状況は悪いが、炉址中より片口付深鉢1個が出土し、床面直上から打製石斧が出上した。柱穴、壁、溝、貯蔵穴等は検出されていない。

J1号土塙は、J1号住北方13m程の所に検出された径1.7mの不正円形を呈す土塙である。底面は平坦で7cm上位から深鉢の底部が出上している。時期は、住居址、土塙とも前期前半と思われる。

奈良・平安時代の堅穴住居址が本遺跡の中心的な遺構である。総数50軒程検出された。

17号住居址は、縦幹線の南端に検出されたもので、東西4.3m×3.85mの規模を呈す若干縦長の長方形住居である。壁高は60cm前後を測り、遺存状況は良好である。東壁と西壁のほぼ中央に各1個の主柱穴が確認されたカマドは、東壁南寄りに設けられ、カマド前面を中心に須恵器台付壇2個体、上師器壺・鉢・甕各1個体がほぼ完形の状態で床面上より出土した。

16号住は、17号住の北壁上に一部重複して検出された、2.55m×3.1mの南北に長い小型の長方形住居で、検出面からの掘り込みは浅いが遺物の遺存状況は良好である。カマドは、東壁の南端近くに河原石を用いて構築されており、羽釜1個体と台付壇3個体が出上している。

また、床面直上から小型壺2個体、台付壇2個体、灰釉陶器壺1個体、覆土中から台付壇1個体が出土している。17号住は奈良時代、16号住は平安時代の住居址である。

溝は13条検出されたが、そのうち2条は土層断面による検出だけである残り11条のうち4条からは遺物が多量に出土している。8号溝は、支線東

側のカット部分に検出されたもので、上端幅0.8m、底部幅0.4m、検出面よりの深さ0.8mを測り、長さ29m程が調査された。走向は、東西方向で調査区域外に延びている。断面形は、底面平坦な逆台形状を呈し、流水によるものと思われるビットが多数形成されていた。溝低位の砂利中及びビット内の砂に混じって多量の遺物が出土した。時期は奈良・平安時代のものが多い。

井戸址は、支線の北端に検出された径2m程の円形を呈し、深さは約5m程の素堀りの井戸である。遺物の量は少ないが、高台付碗、土師器の壺・甕などが出土しており、平安時代ごろのものと思われる。

堅穴住居址状遺構は、支線中位からカット部にかけて3棟程検出された。50号住は、3m×4m程の長方形で壁に沿って柱穴が多数検出された。49号住も同様な規模で50号住の西側に位置するが、その間にも長方形の堅穴状掘り込み柱穴等が多数あり、調査区域外の部分を挟んで45号住まで遺構が連続している可能性がある。

遺物が何も出土していないため、時期については判然としないが、他の遺構との重複関係により中世以降のものである。

土塗は、縄文時代のものを除いて30基程調査した。遺物を伴うものはわずかで、時期も判然としないが、覆土遺物等から判断して平安時代ごろのものが多いと思われる。規模は径1m前後の円形を呈すものが多い。

ビット群は、カット部分の北側から支線にかけて検出された。ビット中より奈良・平安時代の遺物が多数出土しており、堅穴住居址とビットの重複がなくあたかもビット群を取り囲むような形に堅穴住居址が位置しているので同時期のものと思われるが、掘立柱建物址、柵列など明確に判断できる遺構はなかった。

窪谷戸遺跡 住居址一覧表

| No. | 形 状 | 規 模 | か ま ど | 遺 物 | 重 複 | 時 間 | 備 考 |
|-----|-------|-------------|--------------|---------------------------------|----------------|-----|--------------------|
| 1 | 長方形 | 305×400 | 東壁南寄 | 土器片、火燒片、長甕片 | な し | 真 間 | 擾乱激しい |
| 2 | 長方形 | (220)×310 | 東壁南端
(石組) | 羽釜片
土器片(环) | な し | 国 分 | 擾乱激しい |
| 3 | (長方形) | — × 470 | 不 明 | 瓦類瓦、コ字口縁甕
須恵壺、高台付甕 | な し | 国 分 | 擾乱激しい |
| 4 | 長方形 | 380 × — | (東壁中央) | | な し | 不 明 | |
| 5 | 長方形 | 420 × (270) | (南壁) | 土師器 壺 | な し | 不 明 | 鬼高窓の可能性がある。 |
| 6 | 不 明 | 240 × — | 不 明 | 土器片 | な し | 不 明 | |
| 7 | 長方形 | 320 × 375 | 東壁南寄 | 土師器 不 壺 | な し | 真 間 | 壁構全周
上部擾乱激しい |
| 8 | 不整方形 | 275 × 315 | 東壁南寄 | 甕片 壺 | な し | 国 分 | 擾乱激しい。 |
| 9 | 長方形 | 310 × 370 | 東壁南寄
抽石 | 土器片 | 11→9→10 | 国 分 | |
| 10 | 不 明 | 不 明 | 東壁 抽石 | 羽釜 土器 灰胎塗 | 11→9→10 | 国 分 | |
| 11 | 長方形 | 310 × 440 | 東壁南寄
抽石 | コ字口縁甕 | 11→9→10 | 国 分 | |
| 12a | 不 明 | 不 明 | 東壁 石組 | コ字口縁カメ
須恵器 | 12b→12a
→13 | 国 分 | 西側路線外 |
| 12b | 不 明 | — × 320 | 東壁 南寄 | 須恵器 壺
土師器 壺 刀子 | 12b→12a
→13 | 真 間 | 西側路線外 |
| 13 | 不 明 | — × 390 | 東壁南寄
石組 | 羽釜片 壺片
灰釉片 | 12b→12a
→13 | 国 分 | 西側路線外 |
| 14 | 長方形 | 410 × 460 | 東壁 | コ字口縁甕
須恵器 壺 大甕片
灰釉片 | な し | 国 分 | |
| 15 | 不 明 | — × 350 | 東壁南寄 | 土師器 一 杯 壺 | な し | 真 間 | 西側路線外 |
| 16 | 長方形 | 255 × 310 | 東壁南端
(石組) | 羽釜、灰胎塗、食
付瓶 壺 | 17→16 | 国 分 | |
| 17 | 長方形 | 430 × 385 | 東壁南寄 | 土師器 壺、环、鉢
須恵器 壺 | 17→16
17→18 | 真 間 | 柱穴 2 |
| 18 | 不 明 | 不 明 | 東壁 | 土釜 | 17→18 | 国 分 | |
| 19 | 不整方形 | 275 × 270 | 東壁南寄 | 土師器 壺片 | な し | 真 間 | 擾乱激しい |
| 20 | (長方形) | (160)×290 | 不 明 | 甕片 | な し | 不 明 | 東側削平 |
| 21 | 長方形 | 345 × 445 | 東壁南寄 | 羽釜片、コ字口縁カ
メ片、土師器付付向
須恵器、瓶 | 22→21 | 国 分 | |
| 22 | 方 形 | 250 × 260 | 東壁南寄 | 土師器 壺、甕 | 22→21 | 真 間 | |
| 23 | 方 形 | 340 × 380 | (東壁南寄) | 土器片 | な し | 真 間 | 擾乱激しい。 |
| 24 | 長方形 | (265)×320 | (東壁南寄) | 壠 | な し | 国 分 | 東側削平 |
| 25 | 方 形 | 400 × 445 | 東壁ほほ中央 | 土師器 甕、环、壠 | な し | 真 間 | 主柱穴 2
(他に壁柱穴 4) |

| No. | 形 状 | 規 模 | か ま ど | 遺 物 | 重 複 | 時 期 | 備 考 |
|------|-------|-------------|-------|------------------|-------------------|------|----------------------|
| 26 | 不 明 | 340 × 一 | 東壁南寄 | 土師器环、刀子
(5号溝) | な し
(真間) | | |
| 27 | 長 方 形 | 275 × 320 | 東壁南寄 | 甕片 | な し | (国分) | |
| 28 | 不 明 | 一 × 不 明 | | 土師器 壺 | — | 不 明 | はとんど路線外 |
| 29 | 不 明 | — × 340 | 不 明 | 土師器环
編物石 | 29→30 | 真 間 | 西側路線外 |
| 30 | 方 形 | 455 × 510 | 東壁南寄 | 羽蓋 古付甕 | 29→30
42b→30 | 国 分 | 壁柱穴 2 ピット
3 貯藏穴 1 |
| 31 | 長 高 形 | 420 × 330 | 東壁中央 | 土師器环 | な し | 真 間 | |
| 32 | 方 形 | 350 × (380) | 東壁中央 | 土師器环 甕 | な し | 真 間 | 擾乱激しい |
| 33a | 長 方 形 | 220 × 310 | 東壁南寄 | 須恵器 瓶
灰陶片 | 33b→35
→33a | 国 分 | |
| 33b | 長 方 形 | 310 × 250 | 東壁 | 土師器 壺 瓶 | 33b→35
→33a | 真 間 | |
| 34 | 不 明 | — × 450 | 東壁南寄 | 土師器环
須恵器頸部 | — | 真 間 | 西側路線外 |
| 35 | 方 形 | 410 × 380 | 東壁南寄 | 土師器环 須恵器 | 33b→35
→33a | 真 間 | |
| 36 | 不整方形 | 390 × 360 | 東壁中央 | 土師器 甕 | な し | 真 間 | 南側削平 |
| 37 | 長 方 形 | 360 × 300 | 東壁南寄 | 土師器环
須恵器环 | (37→8号溝) | 真 間 | |
| 38 | 不 明 | 330 × 一 | (南壁) | 土師器环 | な し | 真 間 | |
| 39 | 不整方形 | 370 × 385 | 東壁中央 | 土師器环
須恵器片 | な し | 真 間 | 主柱穴 1 |
| 40 | 方 形 | 420 × 390 | 東壁中央 | 土師器环 | (40→7号溝) | 真 間 | 主柱穴 4 |
| 41 | 不 明 | — × 335 | 東壁 | — | 42a→41 | 不 明 | |
| 42a | 方 形 | 325 × 310 | 東壁 | 土師器环 | 42a→41
42a→42b | 真 間 | |
| 42b | 不 明 | | 不 明 | | 42a→42b
42b→30 | 不 明 | |
| 43 | 不 明 | 400 × 一 | 不 明 | 土師器环 | な し | 真 間 | 南側はとんど削平 |
| 44 | 不 明 | 300 × 一 | 不 明 | | な し | 不 明 | 南側はとんど削平 |
| (45) | 不 明 | 330 × 一 | な し | | | | (中世) |
| 46 | 不 明 | — × 不 明 | | 須恵器片 | 46→47 | 不 明 | 壁溝 |
| 47 | 長 方 形 | 300 × 200 | 不 明 | 土師器片 | 46→47 | 不 明 | 住居か疑問あり |
| 48 | 長 方 形 | 240 × 170 | な し | な し | な し | | 住居か疑問。貯藏穴中に灰(北西) |
| (49) | 長 方 形 | (250×380) | な し | な し | な し | | (中世) |
| (50) | 長 方 形 | (300×400) | な し | な し | な し | | (中世) |

(時期は調査時の所見によるため変更される可能性がある)

見眼A 遺跡

本遺跡からは縄文時代、奈良平安時代、中近世の遺構、遺物が検出された。

縄文時代の遺構は竪穴住居址 2 軒と土塉約40基である。J 1号住は調査区域の西端に同期の他の遺構から離れて検出されたもので径4m程の円形状を呈し東側に張り出し部分がある。床面はほぼ平坦で主柱穴と思われるビットも検出されたが、炉、壁溝、貯蔵穴等は検出できなかった。覆土上位から床面まで土器片によって埋め尽くされていた。

土塉は、調査区城の東端部30m程の範囲に集中して検出された。形状は径1m前後の円形を呈すものが多く、断面形は鉢状のものが多い。数基を除きほとんどの土塉から遺物が出土している。遺物は土器片が主であるが、埋甕が3個体、完形の深鉢1個体、完形に近い深鉢3個体が出土している。石器は、打製石斧、磨石、凹石を主として、石皿、石錐、石匙、石鐵、磨製石斧等が少数出土している。

遺構の時期は、住居址が中期前半、土塉は中期後半のものが多く、前半のものは少ない。

なお、遺構の時期は異なるが、1号溝からも多数の石器、土器片が流れ込みの状態で出土している。時期は、中期後半のものが多いと思われる。

奈良・平安時代は、竪穴住居址と掘立柱建物址である。竪穴住居址は9軒調査したが、そのうち完掘できたのは3軒だけである。2号住は3m×3.2mの方形住居で、床面から炭化材が多量に出土しており、焼失家屋と思われる。カマドは東壁中央に設けられ、北壁東寄りに主柱穴が検出された。遺物は土師器、須恵器片が少量出土しただけである。全体的に該期住居址の遺存状況は良くなく、完掘できた遺構の数も少ないため、遺物も少ないが、5号住から刻字された石製紡錘車と鉄製紡錘車が出土していることが特筆される。

掘立柱建物址は2棟検出された。規模は3間×2間と2間×2間である。なお、周囲には多数のビット、ビット列が検出されているので、この2棟以外にもいくつかの建物址が区域外へ延びている可能性がある。

中近世の遺構は、2条の溝が検出された。

1号溝は調査区域の中程に検出されたもので、上幅13m、深さ1.8mを測る。走向はほぼ南北を示し、西側は上端から底部までなだらかに掘り込まれているが、東側は上端から一旦急激に60cm程落込み、4m程の平坦部からさらに底部に向かって急傾斜で掘り込まれている。底部幅は3m程で東に若干傾いているがほぼ平坦であり、底面は踏み固められている。現在の地割が溝の走向と合っていることや、遺物、覆土等を考え合わせると近世以降のものと思われるが、流水痕が明確でなく、底面も固められていることから、古道の可能性もあり、旧道沼田街道との関連が注目される。

見眼A 遺跡 住居址一覧表

| No. | 形 状 | 規 模 | か ま ど | 遺 物 | 重 規 | 時 期 | 備 考 |
|-----|-----|-----------|-------|------------------------------|-------|-----|------------------|
| 1 | 方 形 | 450 × 500 | 東壁南寄 | 土師器 壺 | な し | 真 間 | 半柱穴6
(建て替えか?) |
| 2 | 方形形 | 300 × 320 | 東壁南寄 | 須恵器 盆
土師器片 | な し | 真 間 | 後失家風
半柱穴1 |
| 3 | 不 明 | 430 × — | 不 明 | 土師器片 | 不 明 | 真 間 | 北側路線外
半柱穴1 |
| 4 | 不 明 | 350 × — | 不 明 | | 4 → 5 | 真 間 | 南東側路線外 |
| 5 | 方 形 | 450 × — | (東壁) | 土師器 壺 鉄物
土師器 砂利
土師器 砂利 | 4 → 5 | 国 分 | 南側路線外 |
| 6 | 長方形 | 260 × 310 | 東 壁 | 土師器片 | な し | 真 間 | |
| 7 | 不 明 | — × — | 不 明 | 土師器 壺 | 不 明 | 真 間 | 北東側路線外 |
| 8 | 不 明 | 300 × — | 不 明 | 土師器 壺 壺 | 8 → 8 | 真 間 | 南側路線外 |
| 9 | 不 明 | 345 × — | 不 明 | 須恵器 盆 | 9 ← 8 | 真 間 | 南側路線外 |

見眼B 遺跡

本遺跡では竪穴住居址、掘立柱建物址、溝址等が検出された。

竪穴住居址は14軒が検出されたが、完掘できたのは6軒だけであり、他は半分以上が調査区域外へ伸び、調査された部分も耕作によって攪乱されており、全体的に遺存状況は良くない。3号住も西側の半分以上が調査区域外で、東壁寄りのごく一部分が調査できただけであるが、遺物の遺存状況は良好で、カマ

ド及びその前面からほぼ完形の甕3個体、土師器の壺3個体が出土している。時期は奈良時代と思われる。

5号住は平安時代の住居址で、奈良時代の4号住の東・南壁上に乗る形で検出された。2.9m×3.7mの長方形を呈し、東壁南寄りに石組のカマドが設けられている。遺物は少ないが、赤褐色を呈し薄手な土師器の羽釜1個体、いわゆる土師質の羽釜1個体と須恵器の羽釜片が出土している点が興味深い。他に鉄鎌と鎌と思われる鉄製品が出土している。

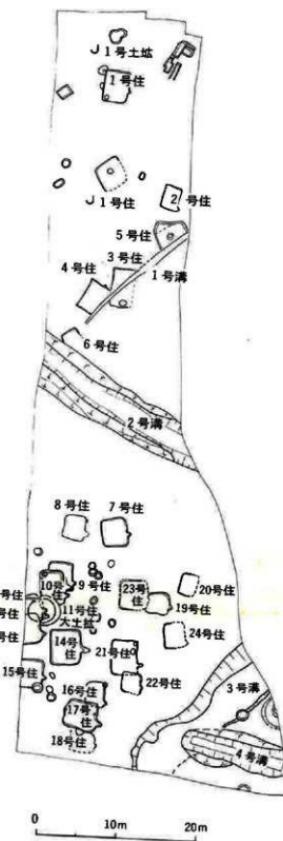
掘立柱建物址は3棟検出された。1号掘立は2間×3間の規模で、南側にさらに2例の柱穴列が並行しており、庇等の付属施設の可能性がある。2・3号掘立は、内部が浅い竪穴状に掘り込まれ、床状に踏み固められているので、土間の建物跡であったと思われる。遺構に付随する遺物は無いので時期は判然としないが、柱穴内の埋土等を考えると中世以降のものと思われる。

溝址は5条検出された。2号溝は、2・3号掘立に先向するもので、上端幅1.7m、底部幅1m、深さ0.7mを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形状を呈す。走向はほぼ南北を示し、区域外へ延びている。用途は不明である。

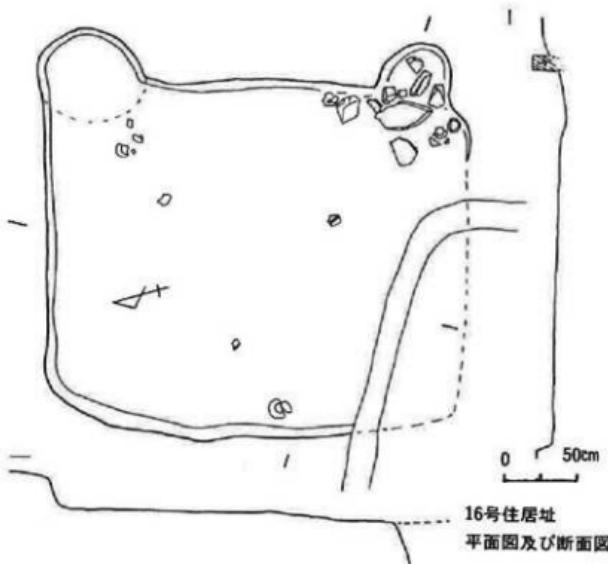
その他の遺構として、集石土塙1基、長方形土塙3基、特殊遺構1基がある。特殊遺構は、0.8m×1.8mの長方形の土塙で、西壁中央部に径0.5mの半円形の張り出し部分がある。壁面は全面にわたって良く焼けており、内部に40cm程の台石が2個すえられ、炭化材によって埋め尽くされていた。また、鉄釘が3本出土しており、火葬墓の可能性もある。時期は掘立遺構より先向すると思われるが、判然としない。

見縁B 遺跡 住居址一覧表

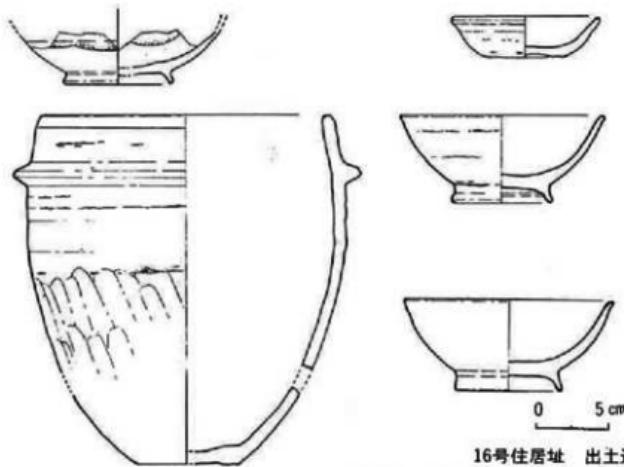
| No | 形 状 | 規 模 | か ま ど | 遺 物 | 重 複 | 時 期 | 備 考 |
|----|------------------------|-----------|--------------|------------------|-------|-------|-------------------------------|
| 1 | 不整形 | 500 × 460 | 東壁南端
西壁南寄 | 土師器坏
須恵器壺 | な し | 真 期 | 鉢張作り替えか?
主柱穴4 取溝 |
| 2 | 不 明 | — × 320 | 東壁南寄
埴石 | 土師器坏 | — | 国 分 | 西側路線外 |
| 3 | 不 明 | — × 305 | 東壁南寄 | 土師器坏 壺 | — | 真 期 | 西側路線外 |
| 4 | 方 形 | 480 × 480 | 西壁南寄 | 土師 壺 壺
須恵 壺 盖 | 4 → 5 | 真 期 | 主柱穴4 距離穴
1 壁溝全周 |
| 5 | 長方形 | 290 × 360 | 東壁南寄
石組 | 羽釜 鉄鐵 | 4 → 5 | 国 分 | |
| 6 | 不 明 | — × 450 | 不 明 | 台付壺 | — | 国 分 | 東側路線外 |
| 7 | 不 明 | — × 410 | 不 明 | 破片少量 | — | 不 明 | 東側路線外 |
| 8 | 当初駆
穴住居址と
想定して調査 | | | | | | 掘立(竪穴)状
遺構
No.2
No.3 |
| 9 | | | | | | | |
| 10 | 不 明 | — | 東壁 | 土師器坏 | — | (真 期) | 西側路線外 |
| 11 | 長方形 | 320 × 400 | 東壁南寄 | 土師器坏 壺 | な し | 真 期 | |
| 12 | 不 明 | — × 430 | 東壁南寄 | 須恵器坏
土師器 壺 | — | 真 期 | 西側路線外 |
| 13 | 長方形 | 230 × 270 | 東壁南寄 | 破片少量 | な し | 真 期 | |
| 14 | 不 明 | — | 東壁 | 羽釜片 | | 国 分 | |
| 15 | 方 形 | 320 × 345 | 東壁南寄 | 壺 台付壺 | な し | 国 分 | |
| 16 | 不 明 | — | — | — | | 不 明 | 東側区城外
被汙染しい |



第2図 堺谷戸遺跡遺構分布図

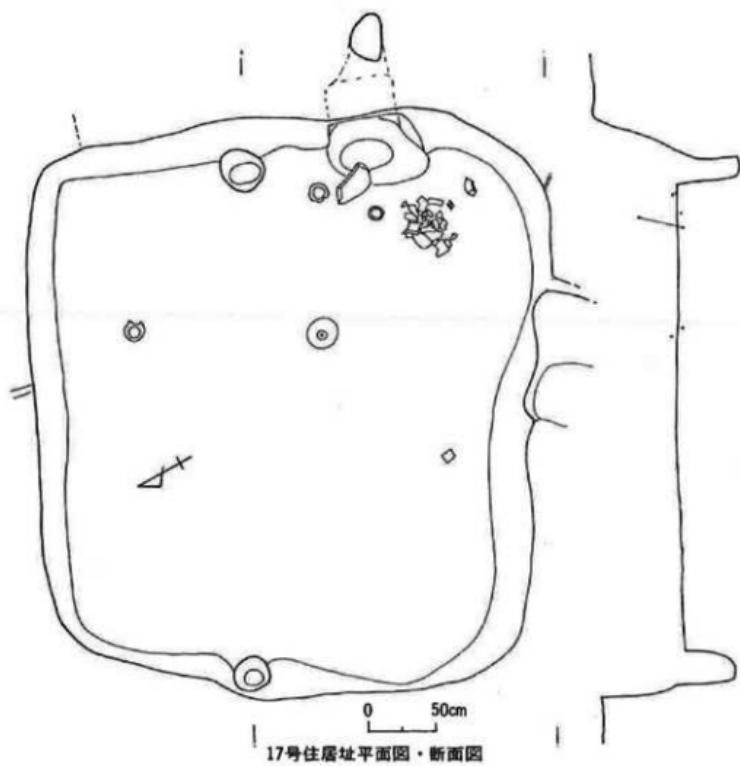


16号住居址
平面図及び断面図

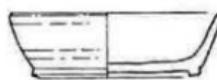
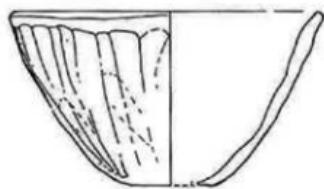
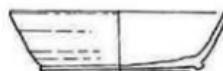


16号住居址 出土遺物

第3図 16号住居址実測図

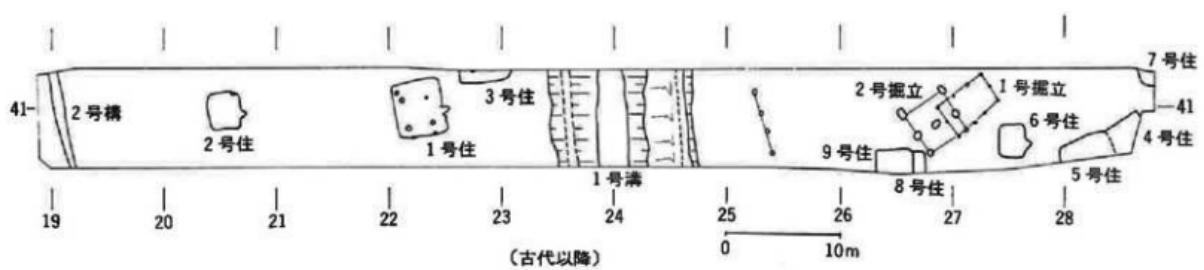
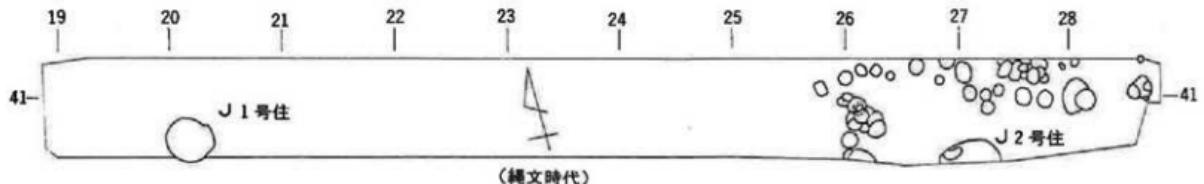


17号住居址平面図・断面図



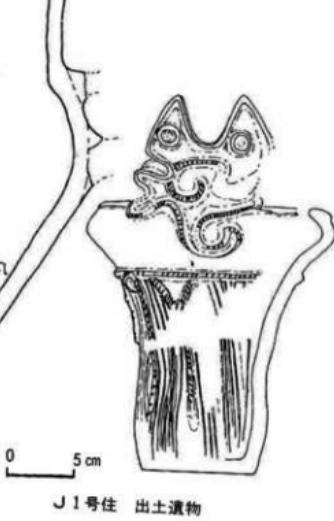
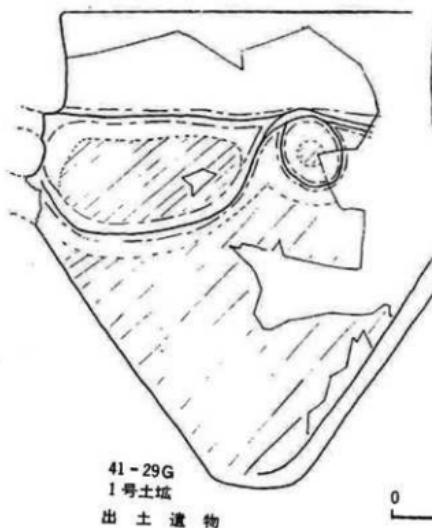
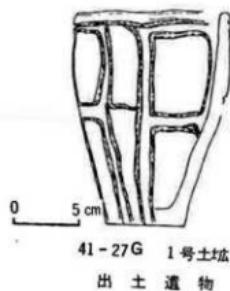
17号住居址出土遺物

第4図 17号住居址実測図

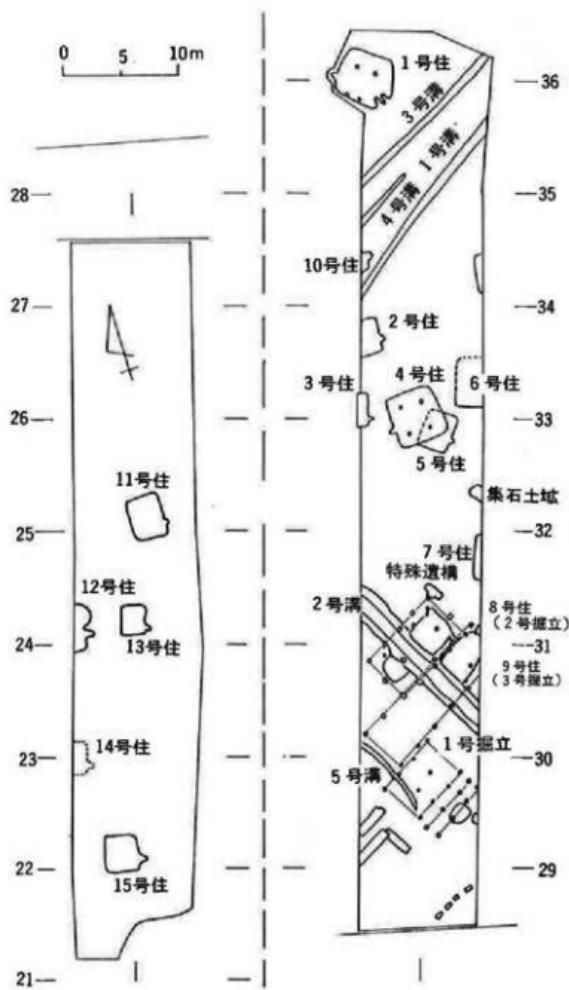


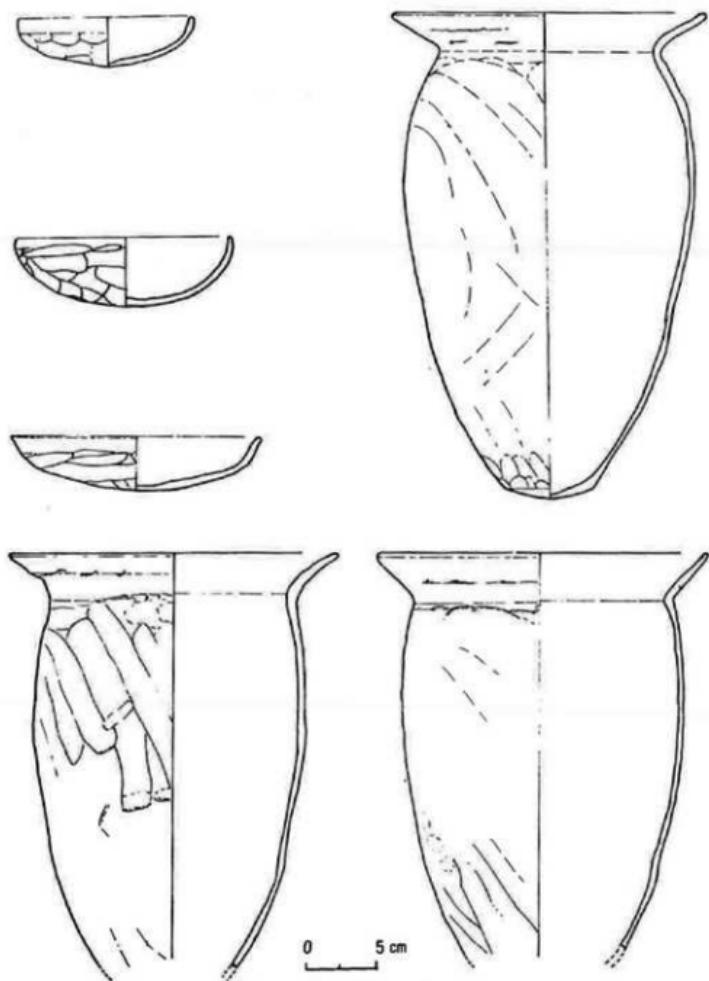
第5図 見眼A 遺跡遺構分布図

第6図 繩文時代
遺構実測図及び
出土遺物



第7図 見眼B遺跡遺構分布図





第8図 3号住居址 出土遺物

写真 1
窟谷戸遺跡遠景（南西から）



写真 2
窟谷戸遺跡、縦幹線とその
東側カット部分全景（南から）



写真 3

窟谷戸遺跡支線全景（南から）



写真 4

窟谷戸遺跡、支線の
東側カット部分全景（西から）

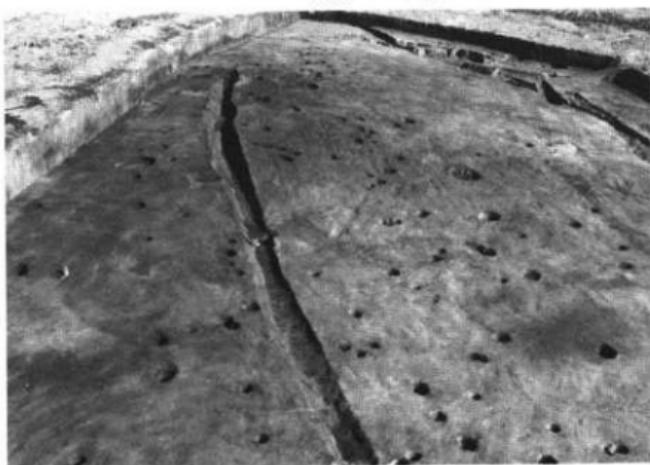


写真 5

窪谷戸遺跡 J 1 号住全景
(北から)

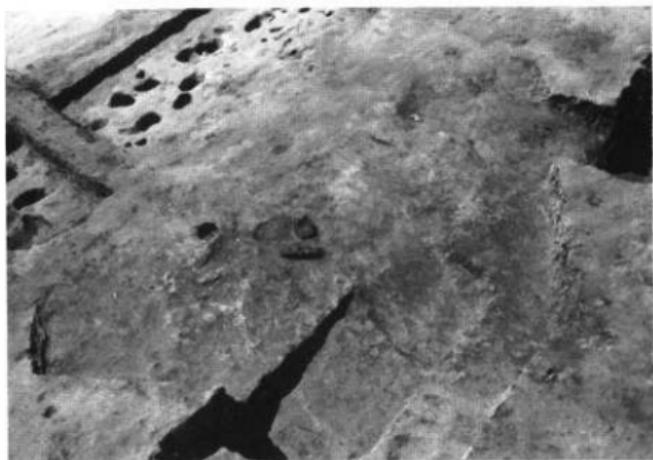


写真 6 窪公戸遺跡 J 1 号住 炉内遺物出土状態

(西から)



写真 7 崩谷戸遺跡 16・17号住全景
(西から)



写真 8 16号住遺物出土状態



写真9

窪谷戸遺跡

遺物出土状態

17号住

(北から)



写真10

窪谷戸遺跡

25号住全景

(西から)



写真11

窪谷戸遺跡・37号住遺物出土状態全景
(西から)

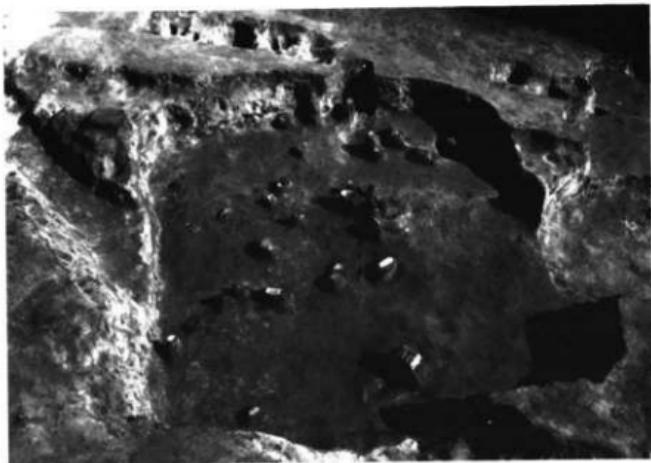


写真12

窪谷戸遺跡住居重複状況（北東から）
(29・30・41・42号住)



写真 13
窪谷戸遺跡
14号住居跡 カマド出土状態 (北西から)



写真 14
窪谷戸遺跡 10・11号住カマド遺物出土状態 (西から)





写真 15
雀谷戸遺跡 3号住居址
遺物出土状態（南から）



写真 16
雀谷戸遺跡
33b号住居址
遺物出土状態
(西から)



写真 17 26号住居跡 遺物出土状態 (北から)



写真 18
雀谷戸遺跡 2号溝
全 景
(北西から)



写真 19
雀谷戸遺跡 8号溝全景
(北東から)

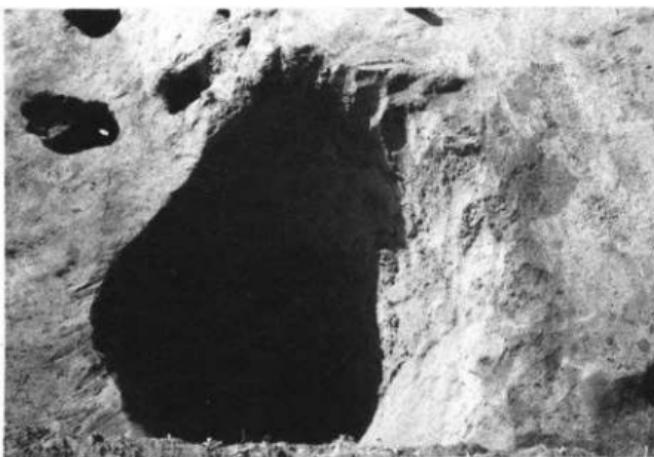


写真 20
窪谷戸遺跡 井戸址全景
(東から)



写真 21
窪谷戸遺跡 堅穴住居址 状
遺構群全景 (東から)

写真 22
竪穴住居状遺構（50号住）
全 景 （北から）



写真 23
窪谷戸遺跡 作業風景



写真24
見眼A遺跡全景（西から）



写真25
見眼A遺跡作業風景



写真 26
見眼A 遺跡東端
遺構出土状況—古代以降（西から）



写真 27
見眼A 遺跡東端
遺構出土状況—縄文時代（西から）



写真28
見眼A遺跡J1号住全景



写真29
見眼A遺跡J1号住
遺物出土状態（北から）



写真 30

見眼A 遺跡 41-27G 6号土塙

セクション (南から)

写真 31

見眼A 遺跡 41-28G 1号土塙

遺物出土状況 (南から)

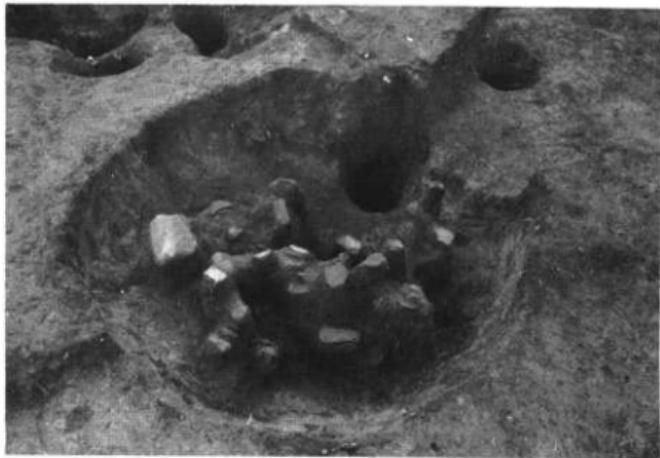




写真32
見眼A 遺跡 41-27G
1号土塙 遺物出土状態（南から）



写真33
見眼A 遺跡 41-27G 1号土塙
遺物出土状態（北から）

写真 34
41-28G
2号土塁
遺物出土状態



写真 35
41-29G
1号土塁
遺物出土
状態
(北から)

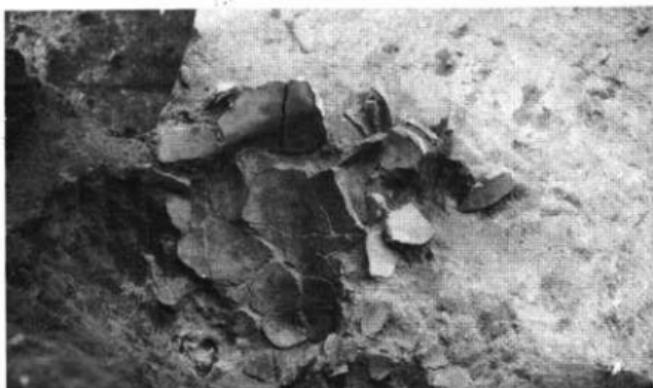


写真 36
40-27G
8号土塁
遺物出土状態
(北から)





写真37 見眼A遺跡 2号住
遺物出土状態全景（西から）



写真38
見眼A遺跡 5号住
遺物出土状態（南から）

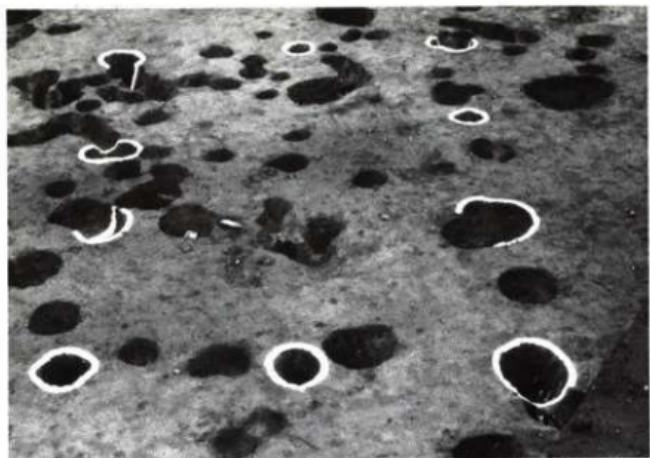


写真 39 見眼 A 遺跡 1号掘立
(東から)



写真 40 見眼 A 遺跡 1号溝 (西から)



写真41
見眼B 遺跡全景（北から）



写真42 見眼B 遺跡 1号住全景（西から）



写真43
見眼B遺跡 3号住
遺物出土状態 (西から)



写真44
見眼B遺跡 3号住
遺物出土状態 (南から)

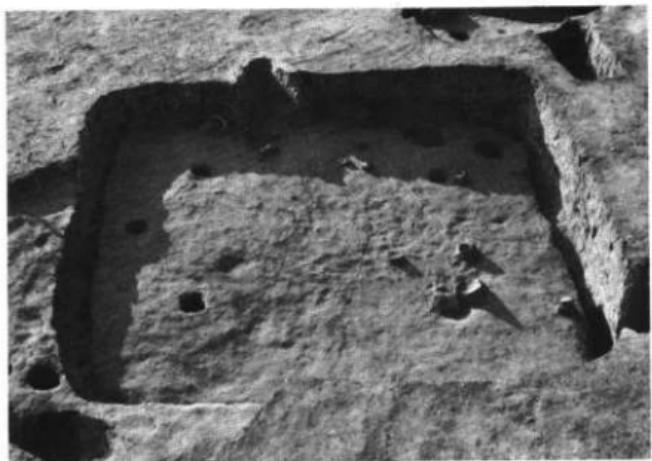


写真45
見眼B遺跡 4号住居址全景
(東から)



写真46
見眼B遺跡 5号住居址全景
(西から)



写真47
見眼B遺跡 15号住居址全景
(西から)

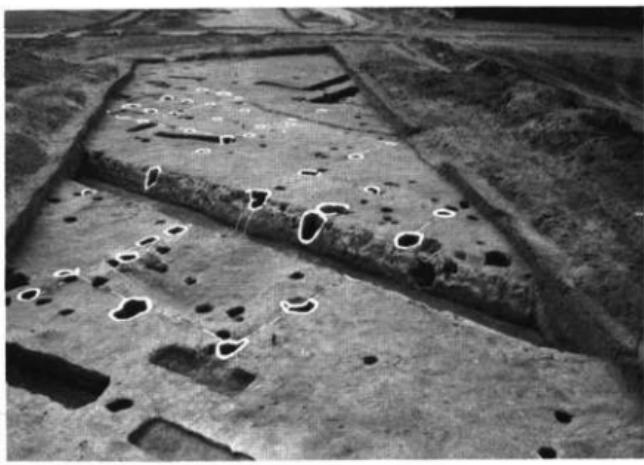


写真48
見眼B遺跡 掘立柱建物群
と2号溝 (北から)

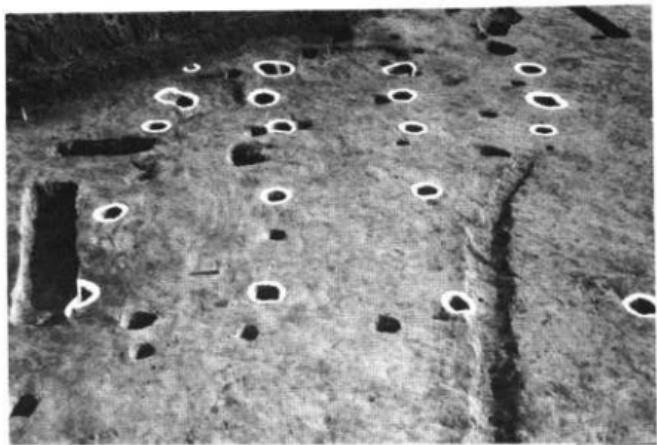


写真49
見眼B 遺跡 1号掘立
(北から)

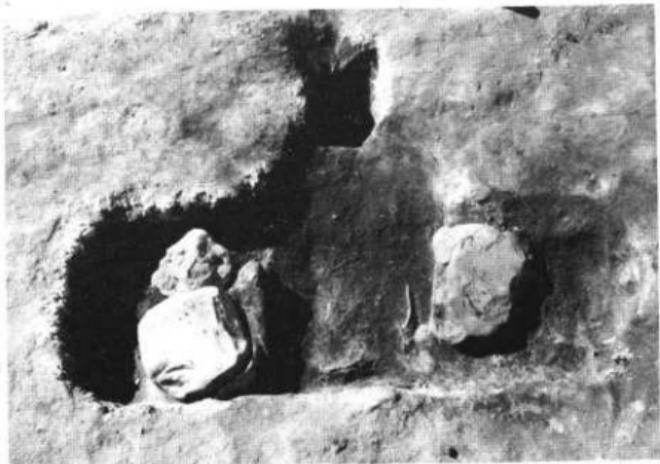


写真50
見眼B 遺跡 特殊遺構
遺物出土状態 (東から)

昭和59年度 富士見村遺跡群
発掘調査概報
—窪谷戸、見眼A、見眼B遺跡—

発行 昭和60年3月
(平371-01)
群馬県勢多郡富士見村大字田島866-1
富士見村教育委員会
印刷 マツグ印刷株式会社

